

Monthly Report

Vol.144 / 2018 APR.

平成30年度入学式を挙りました



入学生を代表して遠藤学長に宣誓をする渡邊稜太さん

4月4日（水）、本学第五体育館で平成30年度第52回体育学部第21回大学院入学式が執り行なわれました。

学長告辞として、遠藤保雄学長は新入生に対し「今日入学する皆さんはこの4年間で何を極めようとするのか、今この時から考え、身近な人々との交流、支援の輪を育みながらじっくりと取り組みましょう。」と激励しました。続いて、理事長挨拶として朴澤泰治理事長・学事顧問が「仙台大学の建学の精神は実学と創意工夫であります。入学生の皆さんには、特に創意工夫を駆使し、大いに様々な学びにチャレンジして頂きたいと思えます。」と挨拶されました。特に理事長は「本年度は新入生の中に、32歳という他の皆さんより更に10年以上の年輪を重ねているサッカー元日本代表FWでFC東京やベガルタ仙台でも活躍された平山相太さんがいます。この度、スポーツ指導者として第2の人生を歩むセカンドキャリアの勉学のため本学に入学されました。この挑戦を心から讃え、入学を歓迎をします。仙台大学としても責任の重大さを受け止め、平山さんと共に切磋琢磨して参ります。」と付言されました。

入学生代表宣言は渡邊稜太さん（体育学科1年-福島県立安達高等学校出身）で「私達が3年生の時には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。体育大学の一員として何らかの形で参画できるよう、学びを通して自己研鑽に励んでまいります。」と力強く宣誓文を読み上げました。

今年は新入生693名（体育学科345名、健康福祉学科105名、運動栄養学科90名、スポーツ情報マスメディア学科43名、現代武道学科41名、子ども運動教育学科48名、編入学生 5名、大学院生16名）が大学生活の第一歩を踏み出しました。多数の広報関係者を前に平山相太さんは「学生生活の中でスポーツマネジメントや指導者としてのコミュニケーション能力、指導方法などを学びたい。」と話してくれました。

新入生1人1人の大学生活が豊かで充実したものになることを教職員一同、心より祈念申し上げます。

〈目次〉

平成30年度入学式を挙行	1
大学院新入生歓迎会を開催 春の県民交通安全総ぐるみ運動	2
第10回元気！健康！フェアinとうほく 「元気体操の楽しみ方」を実演 「留学生歓迎お花見会」を開催！！	3
株式会社ベガルタ仙台とアカデミック パートナーシップを締結 「放課後先生」から「未来先生」へ	4
第12回仙台大学体育施設管理士認定証 授与式を開催	5
第63回中日本レガッタ男子エイト優勝、 女子舵手付きクオドは準優勝	6
フランス研究教育機関国立応用科学院 リヨン校ラグビー部と本学ラグビー部が 合同トレーニングを実施しました 「運動栄養サポーター認定証授与式」	7
「本学研究員・村上泰司（平成28年運動 栄養学科卒業-旭川南高校出身）さんが ハワイ大学院へ進学」	8・9
「高校スポーツの安全を守る」	10・11
平成30年度 新任者紹介	12～15

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802



参加者での記念写真

大学院新入生歓迎会を開催

4月4日に举行された入学式終了後、学生食堂なちゅらを会場に「平成30年度仙台大学大学院新入生歓迎会」が開催され、新入生16名、教職員と大学院生含め約70名が参加しました。

新入生の挨拶では自己紹介やそれぞれが研究したいテーマなどを発表し、これから始まる大学院生活に期待を寄せていました。

歓迎会は終始和やかな雰囲気で行われ、歓談中は大学院生と教職員の会話している様子が多く見られました。



平成30年春の交通安全県民総ぐるみ運動（柴田町）

4月6日から春の交通安全運動が全国一斉にスタートしたことを受け、「春の交通安全県民総ぐるみ運動」交通事故防止街頭キャンペーンが9日朝、船岡駅前を中心に行われました。

本学から学友会の学生6名、滝口柴田町長、大河原警察署、柴田町交通安全協会など計6団体から総勢約40名が参加し、ポケットティッシュやチラシを配りながら駅前を歩く町民の方々に交通安全を呼びかけていました。

本学では毎年春と秋に行われている全国交通安全運動期間に合わせてイベントに参加しており、地域の方々と共に交通安全を呼びかけています。また、4月と9月中は授業開始に合わせて大学近隣の交差点などで学友会と教職員と一緒に、学生の交通マナーアップ運動も行っています。

第10回元気!健康!フェアinとうほく「元気体操の楽しみ方」を実演

3月31日(土)、仙台国際センター(仙台市青葉区)で「第10回元気!健康!フェアinとうほく」(主催:東北大学・河北新報社・東北放送/共催:仙台大学他)が開催されました。同フェアは、東北大学を中心とした多くの企業や団体が参加し、最新・最先端の健康情報について、講師陣が幅広い視点で分かりやすく紹介する講演やセミナー、その他、健康イベントが数多く出展されていました。



参加者と楽しく元気体操を行う松浦新助手

くことができるように下肢の筋力トレーニングを行いました。「本ステージには約60名~70名の方に足を運んでいただき、子どもから大人まで楽しみながら体を動かしました。運動中は、頷きながら話を聞いてくださる方やメモを取りながら参加されているかたも多くいらっしゃいました。今回のイベント参加がきっかけとなり、運動実施や継続に繋がってほしいと思っております。今後も多くの方々の「心身ともに健やかな生活」の実現に向けて、個人だけではなく地域の健康づくりに尽力していきたいです。」と語りました。

<報告:橋本実教授・松浦里紗新助手>

本学からは、橋本教授と松浦新助手が参加しました。橋本教授が「100歳まで元気に生きるコツ」と題して講演し、「健康に生活するためには、運動、食事、休養をバランスよくとることが重要で、普段から、意識して歩き、特に下肢筋力を鍛えることが大切です。また、炭水化物をとるほどに死亡率は増加し、脂質をとるほどに死亡率は低下します。」と研究について話しました。「和食は60%が炭水化物ですが、できれば50%を切るような比率が望ましいと考えられています。最近筋肉からインターロイジンなどのホルモンのような物質が分泌されることが発見され、糖尿病予防などへ応用されるでしょう。」と最近の話題についても話しました。

松浦新助手は「元気体操の楽しみ方」について、指先や体を使った頭の体操やいつまでも自立して歩

「留学生歓迎お花見会」を開催!!



楽しく交流を深める本学の学生と留学生の様子

4月11日(水)に、毎年恒例の留学生歓迎お花見会が学食で開催されました。

この会は、本学の学生と国際交流締結校の中国、台湾、韓国を中心とする留学生の交流を主な目的としています。参加者は留学生22名、教職員13名、ボランティア学生及び、国際交流サークルの学生10名の総勢45名でした。今年度は、中国の瀋陽師範大学から2名、上海体育学院から2名、韓国の龍仁大学から2名の計6名の新入留学生が日本語と、自分の専門分野を学ぶため本学に参りました。留学生や、ボランティア学生たちは、最初は緊張した様子でしたが、韓国人留学生の申原旭(シン ウォン ウク)さん、崔 充榮(チェユンヨン)さんのダンスをきっかけに和やかな雰囲気になり、その後は学生ボランティアの皆さんも少しずつ留学生と交流し、学生間の結びつきが強くなったように感じました。

今後も留学生が少しでも日本の学生生活に親しんでいけるように、本学の学生とできるだけ多くの時間を過ごすためのサポートをしていきたいと思っております。

<報告:学生支援室 大久保成実>

株式会社ベガルタ仙台とアカデミック パートナーシップを締結



締結式に参加した朴澤理事長・学事顧問と

ベガルタ仙台的西川社長（右から3人目）ら

としての役割を見直したいと思っています。地域のみなさんとのつながりを深めていくうえでも、今回のパートナーシップ締結は重要な意味を持ちます。今後は仙南地域に注力したクラブ事業の展開を検討していき、絆づくりを推進するために知恵を絞っていきたいと思っています。」とご挨拶されました。

また朴澤理事長・学事顧問は「現在、元ベガルタ仙台で有名なサッカー選手でもあった平山相太氏が入学しております。選手のセカンドキャリアを引退後ではなく、現役時代から考えていくこと、教育課程内外を通じて学生時代からプロスポーツの現場で学べることは非常に貴重な人材育成の機会となりますので、具体的にベガルタ仙台と共に取り組んでいけることに感謝しております。」とコメントしました。

今年度は本学の学生がプロサッカーの現場にて、コーチング、トレーニングや興行運営などを体験学修いたします。本日のパートナーシップ協定締結により、Bリーグ89ers、プロ野球楽天イーグルスに次いで在仙プロスポーツ3球団とのパートナーシップを締結したこととなります。

4月27日（金）本学LC棟1階において、学校法人朴沢学園仙台大学は、株式会社ベガルタ仙台と「アカデミックパートナーシップ」を締結しました。

本協定は、両者の保有する各々の有形無形の資産の相互活用により、人材育成を通じて相互に地域創生・地域貢献を図っていくことを目的とした包括的なパートナーシップとなります。具体的なプログラムとして、仙台大学学生の専門コースの実践研究の場として学生がプロサッカーチームの現場を学ぶことや、技術指導を手始めに、今後様々な取り組みを行っていく方針です。

株式会社ベガルタ仙台的西川社長は「朴沢学園を通じて仙台大学と明成高校とは密接な関係があります。来年はクラブ25周年を迎えることとなり、改めて市民クラブと



「未来先生」について説明をする柴田町教育長 船迫邦則先生

「放課後先生」から「未来先生」へ

4月18日（水）、「放課後先生」の開校式を実施しました。柴田町教育長 船迫邦則先生をはじめ町内9校の小中学校の担当の先生方にご出席いただきました。教育長先生から、「今年で4年目を迎える事業だが、過去3年間の実績を踏まえ、名称を『未来先生』に変えます。」というお話があり、教員を目指している14名の参加学生の目がひとときわ輝きました。

「未来先生」は今月から早速活動に入り、その様子はHPなどで紹介して参ります。

現在、20名の学生が登録しておりますが、今後も登録は受け付けますので、希望する学生は教職担当の先生にお申し出ください。

なお、「放課後先生」は、文化のまち・教育のまち「しばた」の教育資産（仙台大学）の活用を図り、児童生徒の学力や体力・運動スキル向上と仙台大学と柴田町の小中学校の交流を図ることを目的として始められたものです。「未来先生」と名称変更した今、教員志望の仙台大生が空き時間や放課後を利用し、授業補助・放課後の学習支援・部活動指導に意欲的にあたることが期待されます。

<お問い合わせ先：末永精悦教授>



認定証を授与された学生

第12回仙台大学体育施設管理士認定証授与式を開催

－49名が資格取得

4月13日(金)A棟2階大会議室において第12回仙台大学体育施設管理士認定証授与式が行われました。授与式では、遠藤保雄学長が平成29年度に合格(平成30年2月発表)した49名のうち授与式に出席した33名に対し認定証を一人一人に手渡されました。

－この資格が実社会で活かしたエピソード

認定証授与後の講評の中で、遠藤学長は一人の本学の卒業生の社会に出てからの活躍を引き合いに出して話をされました。そのエピソードとは…。

“その卒業生は本学の部活では正選手にはなれなかったものの、地元に戻り信用金庫に勤めることとなり、営業で回っていた地域の学校の体育館で練習するママさんバレーに部活で身に着けたバレーボールのテクニックを、たまたま伝授する機会を持つこととなった”、“加えて、その学校の体育館などの施設管理に関し「体育施設管理士」としての知見・知識を生かしたアドバイスを自然に行うようになった”、“このようなボランティア的な貢献が思わぬ効果、すなわち、自分の仕事の成績アップに繋がっていった”…というもの。

遠藤学長は、そのエピソードの締めくくりとして、「是非この資格の意義をよく考えて皆様が身に付けたノウハウを活用して自信を持って社会に役立ててほしい」と話されました。

－本学の授業で修得できる資格

体育施設管理士は体育施設の維持管理・運営に必要な知識・技能を認定する資格です。この資格に必要な科目は本学において習得することができ、科目修得後、公益財団法人 日本体育施設協会が学内で実施する資格認定試験に合格した者に『公認体育施設管理士』の資格が付与されます。日本体育施設協会は今まで62回の養成講習会(50余年間)を通してこの資格者を約11,000名認定してきました。本学は同協会の体育施設管理士認定校になって今年度で13年目となります。累計531名の有資格者を養成し、授業を通して資格認定者の養成を継続しています。

－就職試験等への活用を

資格を取得した皆さんは、これから就職活動が待ち構えています。その際、この資格取得により得られた①施設の安全管理 ②顧客満足度を高める維持管理方法 に関する知見に加え、③施設を経営管理していく判断力をも学んでいる点も、会社訪問の際や就職試験の際に説明できるよう準備して、就職活動のツールの一つとして活用していくことが期待されます。

<報告：体育施設コンサルタント 小島文雄>



遠藤学長に結果報告をする漕艇部の学生とスタッフ

第63回中日本レガッタ男子エイト優勝、 女子舵手付きクォドは準優勝

4月20日から22日まで愛知県愛知池で「中日本レガッタ」が開催されました。本学からは「男子エイト」と「女子舵手付きクォド」の2種目にエントリーし、見事男子エイト優勝、女子舵手付きクォドは準優勝を勝ち取りました。5月1日に行われた学長挨拶では中日本レガッタの報告とU23日本代表候補の一瀬卓也選手（体育4年）とU19日本代表に選ばれた阿部亮平選手（体育1年）がそれぞれ以下のコメントをしてくれました。

男子エイト 渡部湧也主将のコメント

「予選ではスタートが空回りしてしまいましたが、レース後の話し合いで本音を語り合い、レース毎に課題を解決しました。その結果決勝では、スタートから僅かなリードを奪い、ゴール前200mからスパートで強豪社会人を引き離し優勝することができました。」

女子舵手付きクォド 原 織江主将のコメント

「自分たちの課題に集中して試合に臨むことができ、その結果が準優勝につながりました。」

U23日本代表候補の一瀬卓也選手

「アジア大会に派遣されるメンバーがまだ決まっていないので、アジア大会に向けて選ばれるようにしっかりとトレーニングを積み、優勝を目標に頑張ります。」

U19日本代表の阿部亮平選手

「日本代表になれたことに満足せず、次のアジア選手権に出場し、活躍できるようにもっと質の高い練習に励んでいきたいです。」

それを聞いて遠藤学長は、「男子は本音を語り合えたこと、女子は課題に集中できたことが良い結果につながりました。これをベースに更なる飛躍を期待しています。」と激励されました。





合同トレーニング前に笑顔で記念写真

フランス研究教育機関国立応用科学院リヨン校ラグビー部と 本学ラグビー部が合同トレーニングを実施しました

4月17日（火）仙台大学第2グラウンドにてフランス研究教育機関国立応用科学院リヨン校ラグビー部38名と本学ラグビー部6名、東北医科薬科大学ラグビー部3名、仙台高校ラグビー部18名の合同トレーニングが行われました。遠藤保雄学長は集まった学生に対し、「仙台大の皆さんを代表して心から歓迎します。日本では4～5年前まではラグビーの関心が少なかったのですが、ワールドカップで日本代表が南アフリカに勝利したことなど、大衆も関心を持ち始めてきました。本学のラグビー場の芝はしっかりと管理されておりますので今日の合同トレーニングを是非、有意義な時間にしてください。」とフランス語を交えながら英語で歓迎しました。

17：00～18：30と短い時間ではありましたが、フランスのラグビーを体験し、本学ラグビー部 向谷地 保主将（体育学科3年生）は「日本のラグビーとは違いパスが多く、他の国のラグビーを体験することができてチームにとっても個人としても勉強になりました。」と答えてくれました。

またフランス研究教育機関国立応用科学院リヨン校ラグビー部の主将 ウジェ ウリスさんは「仙台大学と練習をさせていただきとても光栄でした。次回は日本のチームの皆さんが、フランスに来ていただき、また一緒にプレイしたいです。」と笑顔で語りました。



認定証を授与された学生

「運動栄養サポーター

認定証授与式」

4月27日（金）第5回運動栄養サポーター授与式を開催しました。運動栄養サポーターは4年前から本学の運動栄養学科学生対象に設けられた学内認定資格です。運動栄養サポーターは運動・スポーツの現場及び教育の現場（小学校・中学校・高校など）、健康づくりの現場（子ども、高齢者など）において、運動・スポーツを行う人に対し栄養指導ができる人材を育成する目的があり、階級は初級、中級、上級の3つがあります。

今回の授与式では初級14名、中級9名、上級5名に対して認定証書が授与されました。上級資格を認定された

学生（4年生・高橋彩さん）は、「私は選手の目線から考えて主体的に企画や運営を行うことで、より様々な知識を身につけることができました。将来栄養士として働く際も身に着けたスキルを活かしていきたいと思えます。」と話していました。

運動栄養サポーター取得者はこれまで延べ73名となりました。一昨年までは運動栄養サポート研究会会員のみの取得となっていましたが、昨年度からはより多くの学生が取得できるように、運動栄養サポーター取得カリキュラムの一部を1年生の授業に取り込みました。授業の中で運動栄養サポーター及び、運動栄養サポート研究会に興味を持ってもらい、今後もさらにサポーター取得者が増えるように工夫をしていきたいと思えます。

<報告：新助手 山上はるか>



写真はアスレティックトレーナールームのヘッドであるエリック・オカザキ氏に指導を受けながら実践を積む村上さん

「ハワイ大学マノア校教育学部のNathan M. Murata学部長から
「村上泰司くんの大学院進学誠におめでとうございます。
心より歓迎します」という お祝いメッセージも届きました。」

「本学研究員・村上泰司（平成28年運動栄養学科卒業一旭川南高校出身）さんがハワイ大学院へ進学」

本学を卒業後、ATC（全米アスレティックトレーナー協会が公認するアスレティックトレーナー資格）取得を目指しハワイ大学マノア校にて学んでいた村上泰司さんが、このたび見事ハワイ大学院への進学を果たしました。日々勉学に励む村上さんに喜びの声・今後の抱負をおたずねしましたのでご紹介致します。

・今後、いつから大学院生活が始まりますか？

大学院の授業は7月の第一週目から本格的に始まります。

・毎日どのような授業を受けるのですか？

最初の夏学期の授業は応急処置等を中心に受ける予定です。秋学期以降からは、スポーツ外傷・障害に関する知識、評価方法などを学期ごとに部位別に学ぶことに加え、物理療法やアスレティックリハビリテーションの知識等も学んでいく予定です。

・すでにAT Rmで実習し始めているそうですね？

現在はアメリカンフットボールを中心にサポートしております。ヘッドアスレティックトレーナーのテーピングの試験にも合格し、練習前の足関節のテーピングも任せてもらえるようになり、より一層のやりがいを感じるようになってきました。また、フットボール以外にも、ビーチバレーボール、野球や女子ソフトボールの試合のサポートもさせて頂く機会もあり、競技特性や競技に関連する外傷・障害を学ぶ良い機会となっております。

・UHのハレマノア寮に住んでみての感想

勉強とAT roomの活動を両立するのに理想的な環境であると感じました。かつて通学に充てていた時間を勉強に使うことが出来るため、より勉強に集中できるようになりました。また、AT roomでの活動が遅くなっても、徒歩圏内にあるため帰道の危険性も心配することもなくなりました。そして、なによりもAT roomでの活動の幅が広がりました。アメフトの練習は早朝で、以前は家から大学まで時間がかかるため行く機会が限られていましたが、現在はほぼ毎回練習に参加することが出来ています。

普段の生活では、中国人の学生とルームシェアをしており、文化的な交流もできてとても楽しく過ごしております。ホームステイと同様に常に英語を話すことが出来るため、スピーキングスキルを養う良いきっかけともなっております。

・ATCを取得後の進路は？

資格取得後はアメリカで経験を積みながら興味のある研究分野を絞って、最終的にアメリカで博士号取得し研究職につくことを目指しております。脳震盪の対応は特に興味のある分野のため、そこに焦点を合わせながら経験を積んでいきたいです。

・晴れてUH大学院生になれたことに仙台大学で学んだ事柄はどのように活かされましたか？

AT部での活動が大いに役に立ったと思います。帯同、啓蒙活動やブース活動を通して、様々な現場を経験できたこと、学んだ知識を実際に活かしたことは現地の学生と比べ大きなアドバンテージとなったと思います。さらに、これらの知識を踏まえ、入学に至るまでの約一年間、ハワイ大学のボランティアを通してアメリカのATの現状やスポーツ現場について様々なことを考えることが出来ました。両国のスポーツ現場を経験し、比較できたことは自分自身ならではの経験であり、自分の目標を改めて明確にするうえで重要なものとなりました。

プログラム願書の提出にあたり、アメリカ式のGPA3.0以上が必須条件でした。しかし、AT部で学んだことを仙台大学の授業でも生かすことが出来たため、良い成績を残すことにつながり、自信をもって提出することが出来ました。さらに、プログラムが求める必須科目では栄養士過程とAT過程をとっていたことで、ほぼすべての科目をカバーしました。

・ATCを目指す後輩たちへのアドバイス

ATCのプログラムに入るためにはまず、TOEFLの取得が必須です。そのため、日々コツコツと英語を勉強することをお勧めします。現在は、様々な言語学習アプリも開発されているため、それらを用いながら工夫して勉強するとより効率的に覚えていくと思います。英語の勉強と並行して、仙台大学に来る留学生と積極的にコミュニケーションをとって練習すると徐々に上達していくと思います。

また、日本スポーツ協会公認ATの取得も同時に目指すこともお勧めします。ATC過程に入った際に、日本で得た知識がとても役に立つからです。私自身も、ATCに関わる授業を受けて初めて、身をもって実感しております。英語で復習することに加え、得た知識を深めていくためにも資格取得は今後の勉強の助けになります。これら乗り越えていくのは大変だと思いますが、あきらめず頑張ってください。乗り越えた先には自分自身にしか見えないもの・体験できないものがたくさんあります。第二言語での勉強はタフな経験ですが、同時にとても楽しいことですので、英語での勉強を通して新たな発見や、理解が深まることが多くあるからです。これらの過程で得た知識や出会いは資格取得以上の価値を生み出してくれるでしょう。私自身も、これからが本番ですので皆さんと一緒にこれからも頑張っていきたいと思います。

村上さんは、アスレティックトレーナー研修（ビギナーコース・アドバンスコース）に参加する本学の学生たちがハワイ大学を訪れた際には、毎回親身になって世話をし下さり、後輩たちからも目標にする先輩として慕われています。村上さんが初志貫徹しATCになる日が待ち望まれます。

「高校スポーツの安全を守る」

こんにちは！仙台大学川平キャンパスの助手です！（写真左から浅野、白坂、小野）
 私達の活動をみなさまにご紹介したく今回からMonthly Reportに「川平キャンパスAT・S&Cレポートを書かせていただくこととなりました。



私達はアスレティックトレーナー（AT）2名とストレングス&コンディショニングコーチ（S&C）1名、日本体育協会公認スポーツドクター1名という体制で仙台大学川平キャンパスにあるアスレティックトレーニングルームを運営しています。普段から青葉区に位置する川平キャンパスで勤務をしているため船岡キャンパスの皆様と交流する機会が少なく、たまに皆様とお会いする時に「どんなことをしているの？」と聞かれます。「明成高校と高大連携事業をしています」「高校生を対象にスポーツトレーナー活動をしています」といったお返事をしていますが、このような質問の後には「もっと学内の方々に知ってもらわなければ！」と感じていました。ということで、川平キャンパス設立から5年が経とうとしているこの節目の時期に、「川平での活動を

もっと学内の皆様知ってもらうことが本来の活動目的である“学外普及”の原点ではないか」と振り返りました。私達はミッションに『高校スポーツの安全を守る』を掲げ、姉妹校である明成高校の運動部活動を対象にスポーツ傷害予防を目的としたそれぞれのトレーナー活動をしています。これからこの川平AT・S&Cコーナーで私達の活動や明成高校生の部活動の様子、各種スポーツイベントそして部活動で発生するスポーツ傷害などを通して、高校レベルで行う『アスレティックトレーニング』と『ストレングス&コンディショニング』という分野の目的やビジョンを皆様と共有していきたいと思っています。宜しくお願いします。

初回は川平キャンパスの施設紹介です。船岡キャンパスよりもかなり小規模ですが、充実した施設があります。アスレティックトレーニングルームは明仙フィールドに隣接していて、フィールドで部活動をしている生徒たちがよく見渡せます。春から秋にかけては気候に合わせて施設の前にベンチとパラソルを置き、生徒たちはアイシングやアイスバスをしたり、フィールド使用者が熱中症予防に休憩をしたりと賑わいます。



川平ATR外観



明仙フィールド

フィールドは人工芝のサッカーフィールド、サブグラウンド、陸上競技場、クレイグラウンドがあります。普段は明成高校生の部活動の利用が多いですが、週末や長期休暇中は地域の小学校やスポーツクラブなども日常的に利用しています。多くの年代が同じフィールドでそれぞれの競技をする、多様性あふれる運営がされています。遠くには泉ヶ岳が見える開放感あるフィールドです。



川平ATR内観（アスリハ室）



川平ATR内観（処置室）

アスレティックトレーニングルームは 現在1日に平均25名の生徒が利用しています。アスレティックリハビリテーションをはじめ、怪我の状態に合わせたウォームアップやクールダウンの指導、怪我を繰り返さないための予防トレーニングなど、スポーツ傷害に関わる予防から復帰までの様々なトレーニングを指導しています。S&Cは奥に設置されているオリンピックスタイルのプラットフォームを使い、競技力向上を目指したトレーニングを指導しています。隣は処置室となっていて、怪我の評価をしたり、リハビリ計画を話し合ったり、トレーニング中の補食や水分補給をする多目的な部屋です。高校生対象の教育的な指導であるため、丁寧さとわかりやすさを追求し、骨格模型や筋肉模型を使いながら怪我の説明をしています。多くの高校生は模型に興味を示し、見たり触ったりして人体について日々理解を深めています。

皆様、法人事務局に御用の際や、お近くにお越しになる際は是非立ち寄って下さい。元気な明成高校生とお待ちしています。

次回は高校総体に出場する男子サッカー部の試合帯同について紹介予定です。（担当 小野）

平成30年度 新任者紹介

教員10名 事務職員6名 新助手5名 臨時職員10名 計30名の皆さんが着任いたしました。

教員

<p>おおみや いさお 大宮 勇雄 教授 (幼児教育)</p> 	<p>「専門は保育・幼児教育。幸福感や学ぶ意欲の基礎は、乳幼児期にその身体・感覚のレベルで形作られるもの。子ども運動教育学科の皆さんといっしょに仕事ができるのが楽しみです。</p>	<p>はやし なおき 林 直樹 講師 (スポーツ計量学)</p> 	<p>バドミントンのコーチングに関する科目とスポーツ計量学を担当します。体育・スポーツを通して社会に貢献することができる人材の育成を目指して指導していきたいと思えます。</p>
<p>はらだ けんじ 原田 健次 教授 (幼児教育)</p> 	<p>人はみんな違います。足の速い子もいれば遅い子も、運動の得意な子もいれば不得意な子も、すべての子どもが楽しいと思える「幼児体育」を伝えることができる指導者・保育者になってほしいと願っています。</p>	<p>くぼ よしこ 久保 佳子 助教 (運動栄養学科)</p> 	<p>給食委託会社での勤務経験を通して、将来、学生達が充実した社会人になれるよう微力ながら尽力して参りたいと思えます。また運動栄養学科の特色である運動栄養サポート研究会の更なる活性化の為、自らのスポーツ経験を活かし貢献していきたいと思えます。</p>
<p>えじり まさひろ 江尻 雅彦 教授 (生徒指導論)</p> 	<p>本学10期生です。38年間福島県立高等学校に勤務しておりました。その経験を踏まえ、私の後輩でもある学生の皆さんの課題にしっかり向き合い、サポートしていきたいと思えます。</p>	<p>おののち かずや 小野寺 和也 助教 (コーチング論)</p> 	<p>仙台大学の皆さまこんにちは。本年度より助教としてお世話になります。野球部のコーチも務めさせていただきます。精一杯精進してまいりますのでよろしくお願いいたします。</p>
<p>くさか みつお 日下 三男 准教授 (スポーツ情報マスメディア)</p> 	<p>河北新報社で記者を36年やってきました。取材や紙面編集、あるいはコラム執筆が主な仕事内容でした。日々考えたこと、学んだこと、失敗したことなどを学生の皆さんに伝え、共有できたらと思えます。</p>	<p>みぞかみ ひろし 溝上 拓志 助教 (スポーツ情報マスメディア)</p> 	<p>昨年度までの3年間、新助手を務めていました。主に、スポーツ情報マスメディア学科関連授業を担当します。責任感を持って教育研究に取り組みます。よろしくお願いいたします。</p>
<p>ささき かず 佐々木 和 講師 (幼児教育)</p> 	<p>34年間、幼稚園・認定こども園でクラス担任として勤務してきました。今年からは、保育実習、幼稚園教育実習を担当させていただきます。健康第一に、学生さんと共に学びたいと思えます。疲れた時には、抹茶を点てて差し上げます。</p>	<p>かわと ゆうや 川戸 湧也 助教 (体育科教育学)</p> 	<p>昨年10月より新助手として勤務をさせていただいておりましたが、この度、助教としてお世話になることとなりました。専門は柔道コーチングと体育科教育学です。学生の皆さんの学びを支えられれば幸いです。どうぞ宜しくお願い致します。</p>

職員

<p>よしだ きょう 吉田 京 さん (健康管理センター)</p> 	<p>病院勤務時代は内科病棟やリハビリ病棟を経験、3月までは訪問看護師をしていました。学生生活のサポートができるよう頑張ります。ケガや体のことで気になるところがあるなど些細なことでもよいので、気軽にE棟1階の健康管理センターまでいらしてください。</p>	<p>さくらば かずおみ 櫻庭 一臣 さん (営繕管理室)</p> 	<p>営繕管理で勤務しております櫻庭一臣です。自衛隊勤務での経験を活かし、教職員等皆さまの勤務環境が更によくなるように努めてまいりますので、よろしくお願いたします。</p>
<p>さとう みき 佐藤 実季 さん (健康管理センター)</p> 	<p>6年間病院勤務を経た後、2年間ウガンダでJOCVとして業務遂行してまいりました。皆様の健康維持増進に加え、学生の良き道しるべのサポートをしていけたらと思っております。不慣れな部分が多々ありますが精一杯職務に励んでいきます。</p>	<p>こんの まこと 紺野 誠 さん (労務職員)</p> 	<p>1月1日付けで労務職員としてお世話になります。皆様方の顔と名前を早く覚えて大学に貢献できるよう努めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。</p>
<p>むらまつ あつひろ 村松 敦大 さん (入試創職室)</p> 	<p>今年度より教職支援室で勤めさせていただきます村松敦大です。早く仕事を覚え、仙台大学の発展に貢献していきたいと思っております。一生懸命頑張りますのでご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願致します。</p>	<p>たのうえ しんじろう 田上 紳二郎 さん (広報室)</p> 	<p>今年度より広報室で勤務させていただくことになりました田上紳二郎です。精一杯精進してまいりますのでよろしくお願いたします。多くの情報をお待ちしております。</p>

新助手

<p>たなか しんのすけ 田中 慎之助 さん (漕艇部コーチ)</p> 	<p>今年度より新助手としてお世話になります。田中慎之助です。漕艇部のサポート、大学の職員として、さまざまなことに貢献できるようにしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>	<p>やまだ みく 山田 未来 さん (運動栄養学科)</p> 	<p>本年度より運動栄養学科新助手として勤務させていただきます。 様々な業務を通して成長することが出来るよう精進して参ります。 仙台大学に貢献できるよう努力して参りますのでご指導の程よろしくお願いいたします。</p>
<p>たなか りょう 田中 亨 さん (健康福祉学科)</p> 	<p>今年度より新助手としてお世話になります。主な業務は健サポ業務です。大学職員として貢献できるよう積極的に取り組んでいきたいと思えます。ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。</p>	<p>うめつ りゅう 梅津 龍 さん (運動栄養学科)</p> 	<p>今年度から新助手として働くことになりました梅津龍です。1日1日を大切に、自分の出来ることを精いっぱいやっていきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。</p>
<p>さとう ゆうだい 佐藤 悠大 さん (ウエイトリフティング)</p> 	<p>この度新助手として勤務することになりました佐藤悠大と申します。 新社会人として元気にバリバリ働いて、仙台大学に貢献し自分をより大きく成長できるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします！</p>		

臨時職員

<p>くろさわ りょう 黒澤 怜 さん (女子サッカー)</p> 	<p>今年度より臨時職員として実践機構で働くことになりました黒澤怜です。一日も早く業務に慣れ、精一杯努めていきたいと思しますのでご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。</p>	<p>とみざわ こうせい 富澤 光生 さん (学生支援室)</p> 	<p>今年度から、学生支援室で臨時職員として勤務させていただくことになりました。富澤光生です。大学生活がより良いものになるよう、精一杯サポートしていきたいと思します。ご指導ご鞭撻よろしくお願い致します。</p>
<p>おさき こうしろう 尾崎 皇士郎 さん (スポーツ健康科学研究実践機構)</p> 	<p>スポーツ健康科学研究実践機構で臨時職員として勤務させて頂くことになりました。機構での仕事はまだまだ分からないことばかりでご迷惑をおかけしてしまうと思しますが、精一杯努力していきたいと思しますのでご指導の程宜しくお願い致します。</p>	<p>やまか あずさ さん 山家 あずさ さん (保育室)</p> 	<p>今年度より保育室でお世話になります山家あずさです。よろしくお願い致します。</p>
<p>さの ゆき 佐野 友紀 さん (教職支援室)</p> 	<p>教員を目指す学生へより良いサポートが出来るように、仕事に取り組んでいきたいと思っております。また、母校である仙台大学に貢献できるように日々努力して参りますので、ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。</p>	<p>ユウ イージャン 兪 宜箴 さん (外国人特例研究員)</p> 	<p>今年度より臨時職員として勤めさせて頂くことになりました兪宜箴です。仕事は初めてのためご迷惑をお掛けしてしまうと思しますが精一杯努めていきたいと思します。ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。</p>
<p>まやま たいき 真山 大輝 さん (学生支援室)</p> 	<p>今年度から学生支援室で働くことになりました真山大輝です。職員として仙台大学の為に務めさせて頂きます。どうぞご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。</p>	<p>ス ワンティン 蘇 琬庭 さん (外国人特例研究員)</p> 	<p>今年度より外国人特例研究員として勤めさせて頂くことになりました蘇琬庭です。スポーツ健康科学研究実践機構で健康づくり運動サポーターの事業の業務を行います。ご指導の程、よろしくお願い致します。</p>
<p>さくらい かずき 櫻井 一樹さん (学生支援室)</p> 	<p>本年度より学生支援室にて働くことになりました櫻井一樹です。学生がより良い大学生活を送れるよう、サポートなどを精いっぱい頑張りますので、ご指導のほどよろしくお願い致します。</p>	<p>カク コウシ 郭 宏志 さん (外国人特例研究員)</p> 	<p>今年度より臨時職員として働かせていただくことになりました郭宏志と申します。 仙台大学の発展に貢献できるよう、一生懸命頑張りたいと思します。ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。</p>